### 正月がやってくる



高橋幸男 1978—2018

### ●序にかえて

# 正月がやってくる

正月を明日にして思うことがある。

めていく中で。
あれこれ雑用やら、身の回りの片づけ、仕事のやり残しあれこれ雑用やら、身の回りの片づけ、仕事のやり残しあれこれ雑用やら、身の回りの片づけ、仕事のやり残し

繰り返しで生きてくると、尚更その思いがつのる。に月に準じた節目である。また、桜の花が待ち遠しい四月で明日からこそは」と、すべてを明日からの行い、運にからずやってくる節目の一つというものだろう。その度に気らずやってくる節目の一つというものだろう。その度に気らずやってくる節目の一つというものだろう。その度に気に明日からこそは」と、すべてを明日からの行い、運にかけようとする自分がそこにいる。五十年ちょっとをこんなけようとする自分がそこにいる。五十年ちょっとをこんなけようとする自分がそこにいる。五十年ちょっとをこんなけようとする自分がそこにいる。五十年ちょっとをこんなけようとすると、当更その思いがつのる。

正月気分に浸り切れない現実問題がすぐ脳裏をかすめ出すい方が、よっぽど楽しい気持ちがする。幕が開ける前、ご気持ちが高ぶる。それは、これから繰り広げられる事を想気持ちが高ぶる。それは、これから繰り広げられる事を想気がある。また、正月に足を踏み入れるやいなや、気持ちが高ぶる。それは、これから繰り広げられる事を想象してのことだ。また、正月に足を踏み入れるやいなや、よっぽど楽しい気持ちがする。幕が開ける前、ご来年はどんな年になるのだろうか。このまま年が明けな

がない人生であったら楽しいであろうか。進まなければならない明日がある。しかし、なすべきこと何かやろうとすることがある場合は、良くても悪しくてもからやってくることに希望や夢がある内は、心弾むだろう。ことを知っているからだ。人生もそうかも知れない。これ

考える。 ては、かえって正月くらいシンプルにと思うのも、 う」と言われそうだ。 えいもんだ」は、本当に楽しいだろうか。そんなことを言 月は「雪のようなまんま食って、 れともお迎えがまた近づいたと思っているのだろうか。 がりの性分の言い分であろうか。 っぱのような餅食って、てんかぱんか羽子ついて、正月は こんな事を思うと、 「正月くらい難しいことを言わないで、飲もう飲も 正月は楽しいだろうか。 77 いつものように母たちの年の暮れ ゃ 毎日が正月気分の現代におい 油のような酒飲んで、 待ち遠しいだろうか。 へそ曲 正

る。自分が生きている限りやってくる。ともかく正月はやってくる。すぐそこまでやってきてい

た一年が明けた。
光の束は居ながらにして、初日の出を拝ませてくれた。ま思いをさせる。今年は燦然と輝く姿を見せ、枕元まで届くた。いつも昇る朝陽だが、元旦に顔を出す太陽は、格別な屈理屈を言っているまにまに年が明け、正月がやってき

だけの平場があり、その先にまた延々と今年という坂が続えたはずなのに、いざ年を越え正月を迎えると、ちょっとような正月だ。年を越す前は、正月が山の、峠の天辺に見子供の時分と違って坂の途中、ほんの一休みの踊り場の

いことに気付かされる。いているではないか。また、日々登り続けなければならな

のご時世なのだ。そんな運も味方につけたい今日この頃なりに気がもめる。そんな運も味方につけたい今日この頃みくじもなぜか気になる。良ければ良いで、悪ければ悪いする気持ちがある。別に運に頼る訳ではないが、初詣のおする気持ちがある。別に運に頼る訳ではないが、初詣のおりに気がある。

せ、そろりそろり歩む。凍った雪道を歩くように。思う通りにいかない。もう元日からこの有り様だが、別の日に譲れない、この日に済ませておきたい律儀な気持ちも日に譲れない、この日に済ませておきたい律儀な気持ちもすべて順調にと思うが、早くも初詣の人出は予測を超え、

今年はどんな年になるのだろうか。どんなことが舞い込かと、正月気分に浸りたい気分が体の中で同居する。やいこと、悪いことなのか。不安と期待がむのだろうか。良いこと、悪いことなのか。不安と期待がかと、正月気分に浸りたい気が体の中で同居する。

共に正月気分が味わえる時期となる。 その坂を花咲く春をめざして登るのだ。 て佳境に入る時期である。 これから一番寒く、 確かにもうすぐ春の訪れで期待が膨らんだ。 冬真つ只中の正月は、 かない それが北国の正月だ。 そして仕事も年度末納めの三月に向け いや、 まったく急勾配の登り坂が続く。 本来の春間近の正月の頃は、 それまで我慢して待 今の正月は、 その頃が心身 (平成十四年記)

(平成二十五年)までの三十五年間のものです。を始めた一九七七年(昭和五十二年)の翌年年賀から二〇一三年米ここに紹介する年賀状等は、高橋デザイン事務所として業務

### あけまして おめでとうございます

1978.1.1.



高橋デザイン事務所 北上市花園町3-4-18高橋幸男 phone 01976・5-0302 024



### あけましておめでとうございます。

1979 • 1 • 1

### 高橋デザイン事務所 SPACE-DESIGN TAKAHASHI DESIGN OFFICE

024 北上市花園町3-4-18 PHONE 01976·5·0302 高橋幸男・世伊子・央



### あけましておめでとうございます。

今年もよろしくお願い致します。 1980・1・1

### 高橋デザイン事務所

SPACE-DESIGN TAKAHASHI DESIGN OFFICE

024 北上市花園町3-4-18 PHONE 0197・65・0302 高 橋 幸 男 ・ 世伊子・央 Rokujizo and the Braided Hats.



## おめでとうございます。

昭和五十六年(元旦)の年もよろしくお願い致します。

■大晦日、

貧之な

す。戻る途中、野は暮れ雪も降り出は暮れ雪も降り出

す。戻る途中、野中の六地蔵が吹雪にさらされて中の六地蔵が吹雪にさらされて中の六地蔵が餅をひいてくる―。に六地蔵が餅をひいてくる―。に六地蔵が餅をひいてくる―。に大地蔵が餅をひいてくる―。

BO24 北上市花園町3-4-18 店橋デザイン事務所 この年、大事に暮したいものです。

高橋幸男・世伊子・央の24 北上市花園町3-4-18



## あけまして

おめでとうございます。

昭和五十七年 元旦 ■陰曆正月十四日、十五日(所により十六

肴をそなえ、

かせ鳥至るを待つ、かせとり

に来るものは大てい何々という仕組を考え

は大黒恵比寿宝舟と種々の仮装を 前日より仕度し居り或は春こま又 偽し、簇擁して来り様々の芸を 演じ、酒肴の饗を受け、 餅銭

(「風俗画報」第九十七号、「町の民俗」 の祝儀を貰い去る。

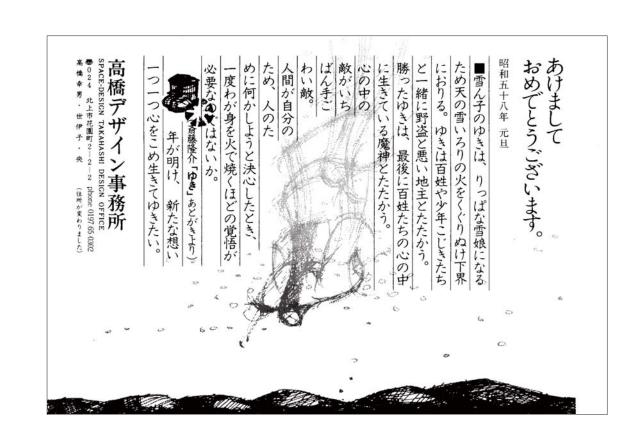
いたことを憶えています。 幼い頃、まだ村にはこんな風習が残って 森口多里より)

世の中が変っても、正月の心は忘れたくな

いものです。

SPACE-DESIGN TAKAHASHI DESIGN OFFICE

高橋 幸男 · 世伊子 · 央

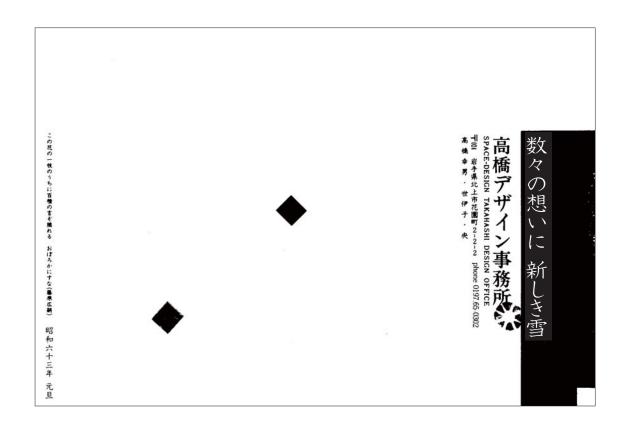


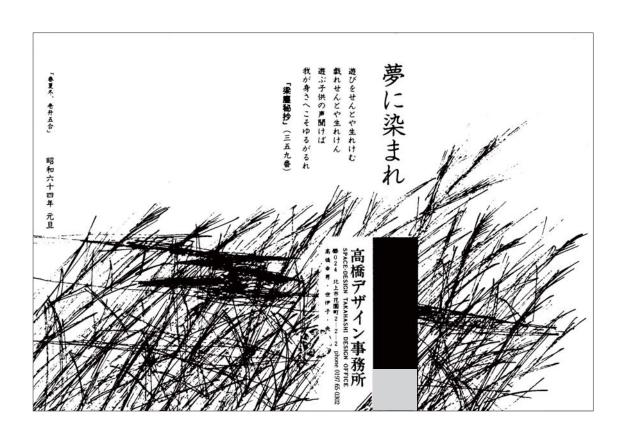


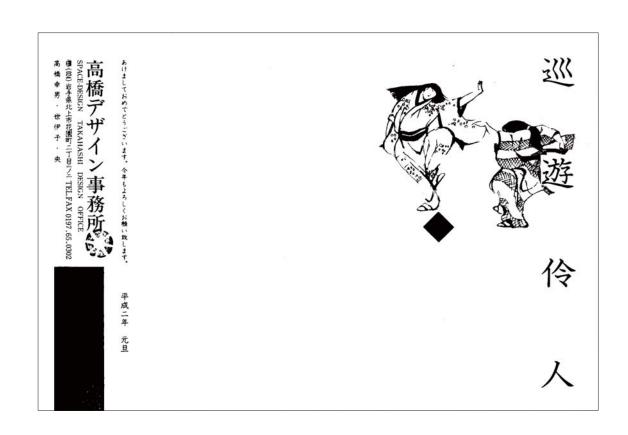












### Flowing Streams

# 宙遊泳·夢事始

■自分を構成する各粒子は宇宙誕生の炎のや輝かしいあけぼののクェーサーを見たのた、はるかな時間と空間を勇敢に旅して人ち、はるかな時間と空間を勇敢に旅して人ち、はるかな時間と空間を勇敢に旅して人ち、はるかな時間と空間を勇敢に旅して人をという物質に融合したのだ、と。

FIELFAX OFFICE

SPACE DESIGN TAKAHASHI DESIGN OFF

平成三年 元旦



平成四年十二月明年も変らぬご交誼のほどお願い申し上げます。今年中賜りましたご厚情を深謝致しますと共に新年のご挨拶をご遠慮申し上げます。

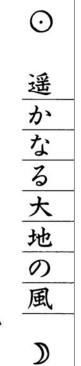
〒020 盛岡市開運橋通二ノ六ノ六〇四 TeL.Fax 0196(23)6050

高橋デザイン事務所・高橋幸男











世界最長のアンデス山脈。その六千メートル級の氷河峰の山麓 を神聖視する。 も続けている。昔ながらの自然崇拝をもち、大地を母なる神と トウモロコシを栽培して、インカ帝国以来の伝統的な生活を今 して、山を神霊の宿る神殿として崇め、太陽、 南米大陸の太平洋岸に沿い、 インディオたちはリャマやアルパカを飼い、ジャガイモや 南北八千キロにわたって連なる 月、 星、虹など

大地に溶け込んだようなつらい労働の日々から開放され、男も 女も伝統的な衣装を身にまとい、酒を飲み、歌い、踊り、泣き、 アンデスの各地方では多彩な祭りが行われる。そこでは人々は、 を物々交換し、おしゃべりを楽しみ、情報を仕入れたりする。 週一度の日曜市場には家族そろって着飾って出かけ、収穫物

平成九年 元旦

叫んで過ごす。(「アンデス大地」高野 潤より)

「高橋デザイン事務所な、

SPACE.DESIGN TAKAHASHI DESIGN OFFICE

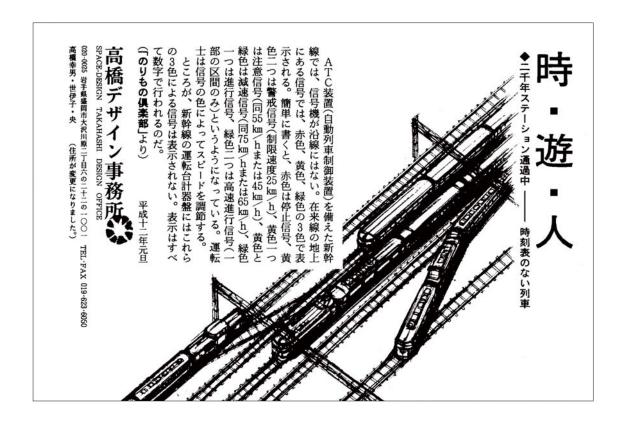
(A020) 海子県倉南市阿里修道リスンの TEL.FAX 019-623-6050

高橋・男・世伊子・央









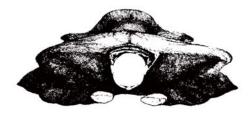








# 天空より花



WAHASHI DESIGN OFFICE

平成十七年元旦

### 「ゼロ地平から挑む」

**韓高橋デザイン事務所** 

小さな暮らし本舗のsupportoffice 020-0025 岩手県盛岡市大沢川原2丁目6-22-1001 phone・fax 019・623・6050 E-mail takahashi@h3.dion.ne.jp 高橋幸男

持つ(to have)生き方でなく 在る(to be)生き方へ (エーリヒ・フロム) 2006.1.1







空ッポな器。

これを食器に用ゐたらば汚しと人に 家ではないかと急に恐ろしくなり、駆け出 どもつひに人影はなければ、もしや山男のありて鉄瓶の湯のたぎれるを見たり。され 経ちてもケセネ尽きず。\*米稗その他の穀物をいふ 置きてケセネを量る器となしたり。 叱られんかと思ひ、 家のカドに出でて物を洗ひてありしに、 実と思ふ者もなかりしが、またある日わが なる庭にて紅白の花一面に咲き鶏多く遊べ るにこの器にて量り始めてより、 あまり美しければ拾ひ上げたれど、 川上より赤き椀一つ流れて来たり。 して家に帰りたり。この事を人に語れども をあまた取り出したり。 りたるに、その次の間には朱と黒との膳椀 て牛多くをり、馬舎ありて馬多くをれども、 いぶかしけれど門の中に入りて見るに、大 いつかうに人はをらず。つひに玄関より上 ケセネギツの中に 奥の座敷には火鉢 いつまで

## KURASHI-DESIGN 2010.1.1

(柳田国男『遠野物語』 六三・マヨイガより)

合資会社高橋デザイン事務所/高橋幸男 小さな暮らし本舗●supportoffice 020-0025 岩手県盛岡市大沢川原二丁目6-22-1001 phone-fax 019-623-6050 E-mail takahashi@h3.dion.ne.jp

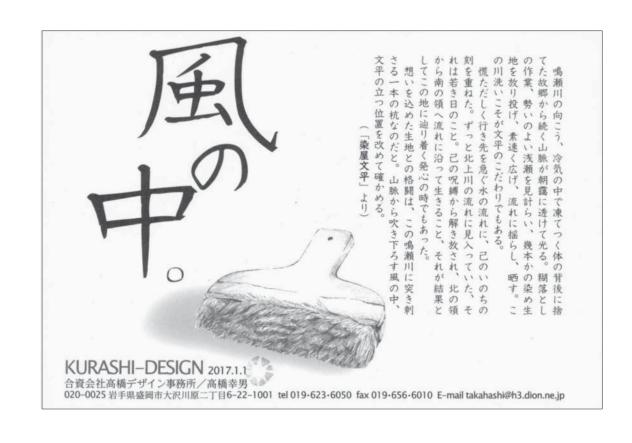














## 餅料理

に近頃、 ったが、 そして秋仕舞いが一段落した時ぐらいで、年に数回に限ら 餅を除けば、決まって人寄せ、 題で、そのため塩をベースとした汁物やおかずが不可欠だ 出ることは少なかった。 最高だった。でも、 になれた。 いだ雰囲気になった。家族みんなが参加でき、幸せな気分 れていた。だから餅の時は、家中が何かワクワクし、華や の代表格が餅料理である。 った。こうした塩気主体の普段の食事に対し、ハレの食事 った。塩引き、 食事は、ご飯とみそ汁が主役であり、おかずは主役に踊り ろっとした小豆餅は、 ほどではないが、 いろんな行事で、餅が振る舞われる場面を見る。到底、 私が幼い頃、 東北は餅の国だ。 餅米消費拡大のPRで「餅つき隊」が登場する。 塩気がないものを食べては、働けなかった時代だ のダブルパンチだった。 それは、 餅料理は大のごちそうだった。中でも、 漬け物、梅干しと、今でこそ減塩指向とな 心ウキウキさせるものが餅料理にはある。 なかなか口に入らなかった。あの頃の 「砂糖」がもたらしてくれる魔術だっ 「餅振る舞い」という言葉もある。 甘い物欠乏症の子供や女性たちには いかに麦飯を腹一杯食べるかが命 日頃あまり口に出来ない 遠方から泊まり客が来た時、 餅をつくのは、正月用の

母は、早いうちから餅米をうるかし、ザルで水を切り、

煮ていた小豆を、 い込み、 すためには、ひとつまみの塩が欠かせない。もう一つのメ ルミを用意した。 に大根おろし、 りにし、煮干しでダシをとり醤油の味付けにする。その他 具の準備も同時進行する。 インとなるおつゆは、大根、ゴボウ、ニンジンなどを千切 ッとねじり、 かまどにせいろで蒸し始める。 ゴロ転がし、土間に運ぶ。臼と杵は、亀の子たわしで洗 子供たちはすり鉢を押さえる役目だった。 砂糖と少量の塩で味を調える。 餅米が蒸し上がるのを今かと待つ。 絞り込む。 納豆、ゴマ、私があまり好きでなかったク ゴマやクルミは、祖父や子供たちの役割 ボールの中で大きな布切れにあけ、 汁だけとなったものを、 朝からコンロの鉄鍋でコトコト 父は、 馬屋の隅から臼をゴ 砂糖の甘さを引き出 一方で、 また鍋に ギュ

ねたり、 る。 音が響き、 はここで一服し、 呼吸を見せる。 くなってきたところで、 もちろん父の男仕事だった。そばにおいたバケツの水に杵 く。最初はしとねるといって、杵で餅米を押さえつけ、 返しにどさっとあけ、せいろの底のスノコと布巾を取り除 を浸し、 んご状にこねていく。 セイロが白い蒸気を噴きだし、 母は杵がつかれる合間をぬって、 あつあつのせいろを用意された臼まで持っていき、 やさしくボールに移し台所に運ばれて行く。 裏返したり、水を付けてやったりと、父と絶妙な いよいよ餅をつき始める。周りの家々に餅つきの 餅料理を自慢しているかのようだった。 つきあがった餅は、 また臼と杵を亀の子たわしで洗い、 この作業は、 母がやってきて、 餅米がふかしあが 以外に力と要領がい 生まれたての赤子のよ 手を伸ばし、 あいどりをす 餅らし 餅をこ る。 翌日 り、 だ 裏

まで乾かす。

中は となった。 かり抜け落ちてしまったことが考えられる。 族の より刺激のある味へと、 時代でもなく、 なった。それは、甘いものに憧れ、貴重品とする食生活の シのある餅も望めなくなり、お世辞にもうまいと言えなく き器に取って代わった。この頃から、 っての餅料理は、 きな原因として、家族揃って食事準備に加わる楽しさ、 で父が倒れると、 が結婚をしてしまうと、 が悪くても舌できれいになめた。この時ばかりは許された。 おつゆ餅であった。 大体決まっていて、 食卓に着くと、 り込まれる。 の中で手品のように小さく切り取られ、 一つである。巷には、 家族が好きだった餅料理は、 つきたての餅は、 役割を果たせ、 「個食の時代」といわれ、 裸電球の下、 欲しがる年頃でもなくなったことが原因の 小豆餅から配られる。 私の家族の原形をたどる、 餅つきは、母が一人でも出来る電気餅つ 食べ終わった椀についた汁粉は、行儀 小豆餅、大根おろしやゴマ餅、 ボールの中で伸ばされながら、 何かしらの満足感を得る過程が、 ありとあらゆる「甘さ」が氾濫し、 私達の味覚を駆り立る。 めっきり減った。やがて、脳溢血 待ちかまえていた家族みんなが 幼い頃息づいていた家族揃 祖父や姉が亡くなり、兄弟 当然以前のようなコ 餅を食べる順番は、 それぞれの具に放 そして、 遠い日の記憶 (平成十四年記) もっと大 最後が すっ の手

うとの魂胆もある。 「正月がやってくる」、とのフレーズで、この四十年間多少「正月がやってくる」、とのフレーズで、この四十年間多少に正月がやってくる」、とのフレーズで、この四十年間多少

毎年、正月は生きている限り訪れることではあるが、こだわり続けていることの本意は、私が生きている間しかることの証でもある。 
当然、私が死ねば終わる話でもある。 
当然、私が死ねば終わる話でもある。 
音に一度のご無沙汰への便りでもあるれない、自分の世界、己が感知する世界が、私には全計されない、自分の世界、己が感知する世界が、私には全許されない、自分の世界、己が感知する世界が、私には全計されない、自分の世界、己が感知する世界が、私には全計されない、自分の世界、己が感知する世界が、私には全計されない、自分の世界、己が感知する世界が、私には全計されない、自分の世界、己が感知するとではあるが、この話では、正月は生きている限ります。

もがな、なかなか思うようにいかない人生でもある。十年間の賀状を辿ると、その時々の私の置かれている状況はた迷惑な話である。それを四十年以上続けている。四

お付き合いを強いることをお許し願いたい。ュージアム」の続編として、いつもながらの私の妄想へのすでに十五年程前となったが、前出版の「ゆきちゃんミ

## 正月がやってくる

製本◆有限会社北上プリント製本◆有限会社北上プリント製本◆有限会社北上プリント 単本 サイン・ 19・623・6050 郵便番号020・0025 を持ちになった。 19・623・6050 郵便番号020・0025 を持ちによった。 19・623・6050 郵便番号020・0025 を持ちによった。 19・10 を表します。 19・10 を表し